

travel  
guide  
book

**高島**  
TAKASHIMA

今昔旅

また、  
行きたくなるね  
高島へ……

発行／(公社)びわ湖高島観光協会

〒520-1501 滋賀県高島市新旭町旭1丁目10-1 高島市観光物産プラザ1F  
TEL.0740-33-7101 FAX.0740-33-7105 [URL https://takashima-kanko.jp](https://takashima-kanko.jp)



R7.10月作成



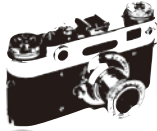
travel guide book  
**滋賀県**  
TAKASHIMA CITY

自然あふれる土地と  
いにしえの人々の暮らしを感じる  
故きを温ねる旅を……

**高島**  
TAKASHIMA

今昔旅





TAKASHIMA

## 高島今昔旅 高島のみどころ



高島市は、琵琶湖の北西部に位置し、古くから京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝として栄えました。中でも陸上交通は比叡・比良山麓を湖畔に沿って走る西近江路や、若狭街道(鯖街道)が中心となり、これらの街道とともに大津方面への湖上交通の拠点である港町や宿場町として栄えました。豊かな自然に支えられ山村から農村・里山・漁村など懐かしい風景を数多く残しています。



## アクセス MAP

MAP

故きを温ねる旅の  
始まりです……



### 車の場合

- 大阪・京都方面からは  
名神高速道路・京都東インターから西大津バイパス→湖西道路→  
国道161号を北へ〈所要時間 約80分〉
- 京都(大原)からは  
国道367号を北へ〈所要時間 約60分〉
- 名古屋方面からは  
北陸自動車道・木之本インターから国道8号→国道303号→  
国道161号を南へ〈所要時間 約40分〉
- 小浜方面からは  
舞鶴若狭自動車道・小浜インターから国道27号→  
国道303号を東へ〈所要時間 約50分〉
- 敦賀方面からは  
北陸自動車道・敦賀インターから国道8号→  
国道161号を南へ〈所要時間 約50分〉



### 電車の場合

- 大阪からは  
JR湖西線新快速で近江今津駅まで〈約80分〉
- 京都からは  
JR湖西線新快速で近江今津駅まで〈約50分〉
- 米原からは  
JR北陸本線で近江塩津駅(乗り換え)から  
JR湖西線近江今津駅まで〈約60分〉
- 敦賀からは  
JR北陸本線、湖西線新快速で近江今津駅まで〈約40分〉

お問い合わせ

(公社) びわ湖高島観光協会

TEL (0740) 33-7101 FAX (0740) 33-7105



## 滋賀県 高島市

- 国道
- 県・市道
- JR

## 目次

戦国歴史——	1	西近江七福神めぐり——	9
古墳——	3	石仏——	10
継体天皇——	4	近世の街道——	11
古代遺跡——	5	近江聖人中江藤樹——	12
万葉歌碑——	6	琵琶湖周航の歌誕生のまち——	13
神社——	7	重要文化的景観——	15
寺院——	8	高島4大春まつり——	16



## 高島戦国史跡めぐり

# 戦国

## ヒストリー

### 山城から平城 ～戦う城から政治の城へ～

#### 代表的な山城

##### しみずやまじょうかんあと 清水山城館跡

西佐々木一族の惣領家である越中氏が城主と考えられています。

戦国期の有力豪族のあり方を知る上で貴重な城郭であることから、清水山城遺跡・清水山遺跡(清水寺・屋敷地)・本堂谷遺跡(大宝寺・屋敷地)の範囲が、清水山城館跡として国史跡に指定されました。

■所在地／高島市新旭町熊野本・安井川



モデルコース

JR新旭駅

●徒歩約15分

登り口(新旭森林スポーツ公園)～清水山城館跡(所要／約90分)

●徒歩約15分

JR新旭駅

JR安曇川駅

●徒歩約1時間  
●タクシー約10分

登り口～田中城跡(所要／約90分)

●徒歩約1時間  
●タクシー約10分

JR安曇川駅

## 戦

戦国時代の城郭は、領国支配の拠点として防御機能を重視した山城が中心であり、まさに戦う城でした。市内には、西佐々木一族惣領家の居城で湖西最大規模を誇る清水山城や、西佐々木一族田中氏の居城である田中城など多くの山城が築かれ、乱世を駆け抜けてきました。

戦国末期になると、戦う城から経済と政治の拠点として、平地に城が築かれるようになります。戦国の覇者・信長の甥 織田信澄によって築かれた大溝城は、琵琶湖の水運と、西近江路が交わる水陸交通の要衝の地に位置しており、まさに政治と経済の拠点であったことがわかります。

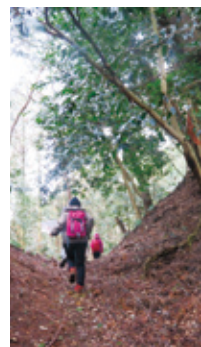
戦う城から政治の城への変遷を辿り、中世から近世の歴史を体感してみませんか。

##### たなかじょうあと 田中城跡

西佐々木一族田中氏の居城であった田中城は、中世末期の山城で、現在も上寺(うえでら)区西側の山間部にその遺構を残しています。主郭があったと推定される曲輪の標高は220m、平地との比高差はわずか60mで同時期の山城と比べ標高の低い場所に位置しますが、城域の要所に堀切、土塁、武者隠しなど外敵を防ぐための遺構が見られます。

元亀元年(1570)、織田信長は越前の朝倉義景を討つため「田中の城」に逗留したと「信長公記」に記されており、この軍勢には後の豊臣秀吉、徳川家康も参加していました。その後、浅井長政の勢力下に置かれた田中城は元亀4年(1573)に信長の手によって攻略され、明智光秀の支配を受けて終焉を迎えました。

■所在地／高島市安曇川町田中



#### ワンポイントマップ

①

## 政治の城

おおみぞじょうあと

### 大溝城跡

戦国の覇者・織田信長は、琵琶湖の「水の利」を生かし城郭ネットワークを形成するべく、長浜城・安土城・坂本城に加え、高島にも「大溝城」を築き固めようとした。大溝城は天正6年(1578)、信長の甥である織田信澄により築城されました。智将の明智光秀が設計したとされています。石垣が往時の繁栄を物語っています。本丸の南東の乙女ヶ池を外堀とする水城であり、「溝湖(こうこ)城」とも呼ばれました。後に、京極高次が城主になったことでも知られます。やがて天守は解体され甲賀市水口の水口岡山城に移され、石積みだけが現存しますが、天正期の築城技術の特徴を残しています。

■所在地／高島市勝野



#### 江戸期の大溝

大溝城下は、元和5年(1619)伊勢上野から入封した分部氏に引き継がれ発展します。

分部光信が城主になると、この地を陣屋として12代光謙(みつのり)の廃藩置県までその支配が続きました。光信は、大溝城三ノ丸に推定される場所に陣屋を構え、水路や街路を整備し武家屋敷と町屋地区を区切り、軍事・経済両面を備えた近代的な城下の整備に尽力しました。大溝陣屋の正門である総門が現存し、町内には当時の町名をしのぶ長刀町・蠟燭町などの町名が残っています。また、大溝城跡の近くには分部神社が、圓光禅寺には大溝歴代藩主の墓があります。

モデルコース

JR  
近江高島駅

徒歩  
約5分

大溝城跡・乙女ヶ池  
(所要／約60分)

徒歩  
約5分

旧大溝城下町(所要／約60分)

徒歩  
約5分

JR  
近江高島駅

「高島びれっじ」で体験・買い物・食事ができます。

\*地元ガイド情報\* 大溝の水辺景観まちづくり協議会 TEL/0740-36-2011(水定休)

## 危機一髪 ～信長の朽木越え～

倒れた織田信長。天正年間には、最強を誇った信長が最大の危機的状況に陥った元亀争乱。元亀元年(1570)、信長の朝倉攻めに際し、同盟関係にあった浅井長政が離反し朝倉方についたことに端を発します。北は朝倉氏、湖北からは浅井氏に挟まれる形になり、織田軍勢は急遽撤退を決定、丹後街道から南下、近江に入り保坂(今津町)から朽木街道を抜けて京都に逃げ戻りました。

「信長の朽木越え」として知られる現地をゆっくり散策してみましょう。

いちばのまちなみ・くつきじんやあと

### 市場の町並み・朽木陣屋跡

古来より日本海・若狭と京を結ぶ街道「鯖街道」沿いに位置し、現在も鍵曲(かいまがり)と呼ばれる意図的な屈曲が見られる等、当時の面影を残します。また、朽木陣屋跡は関ヶ原の戦い以後、徳川幕府の譜代大名格の待遇を受けた朽木氏が領地内に設けた城館跡で、敷地に本丸・二の丸・三の丸をはじめ、御殿・侍所・剣術道場・馬場・倉庫など戦陣拠点としての諸施設が建っていたといわれています。

■所在地／(市場の町並み) 高島市朽木市場  
(朽木陣屋跡) 高島市朽木野尻



モデルコース

JR  
安曇川駅

朽木線バスで約30分  
「朽木学校前」下車、徒歩10分

市場の町並み

徒歩  
約15分

興聖寺・旧秀隣寺庭園

徒歩  
約15分

道の駅くつき新本陣

朽木学校前から朽木線バスで約30分

JR  
安曇川駅

②



乙女ヶ池



大溝城跡



鯖街道や朽木ならではの特産品がおすすめ。



道の駅くつき新本陣



# 古墳

## ミステリー発見の旅

### 古代の営みが想像できるかも



### 北牧野古墳群(きたまきのこふんぐん)

高島市マキノ町北牧野の北東(現在のマキノ高原付近)に広がる古墳群です。調査の結果、確認された古墳は80基弱ですが、消滅したものを含めると100基以上と推定されます。ほとんどが円墳であり、大きさは最大のもので15m程度。埋葬施設は「横穴式石室」と呼ばれる石を積み上げて造られたものです。

### 王塚古墳群(おうづかこふんぐん)

5世紀に築造され、その規模は周溝を含め古墳全体の直径80m・高さ7mを測ります。平地に築かれたものとしては県下最大級の円墳です。一説に、恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱(764)で没した塩焼王の墳墓とする伝承が残っています。この王塚古墳は、高島市における古墳時代の解明に重要な意義を持ち、近江の古代史の研究に欠くことの出来ない遺跡として、昭和62年滋賀県の史跡に指定されました。

### 熊野本古墳群(くまのもとこふんぐん)

熊野本高地性集落に隣接する北側の丘陵を中心に立地しています。古墳の形や規模などから、湖西地域の代々の首長を埋葬した古墳群と考えられています。これまでに38基の古墳が確認されており、円墳・方墳・前方後円墳・前方後方墳の、基本的な形の古墳が揃っています。とりわけ平成12年に発掘調査が行われた6号墳は、全国でも最古期の前方後方墳として注目されています。

### 鴨稲荷山古墳(かもいなりやまこふん)

周溝を含めた全長約60mの規模を持つ前方後円墳で、古墳時代後期(6世紀前半)に築かれたと考えられます。埋葬施設は横穴式石室で、石棺内の被葬者の身の回りには、金銅製の宝冠・飾履・魚佩・金製垂飾付耳飾・玉類・環頭大刀・鹿角装大刀・刀子・鉄斧・鏡などの豪華な副葬品が納められ、石棺内は朱で塗られています。石棺に加工された石は、二上山(大阪と奈良の境)で産出する白色凝灰岩であり、この巨大な石材が高島の地まで搬入されたことから鴨稲荷山古墳の被葬者は大和や河内の有力者と関係を持っていたと考えられます。

### 打下古墳(うちおろしこふん)

明神崎の北の山腹に所在する5世紀代の古墳です。埋葬主体部は板石を箱状に組み合わせた箱形石棺で、内部からは頭蓋骨等が発見されました。5世紀は、大和政権が日本各地域の豪族を傘下に入れ、国家統一に動き始めた時代であると考えられています。この古墳の被葬者も大和と北陸諸国を結ぶ交通路の要衝を支配していた村長クラスであった可能性があります。

### ワンポイントマップ



ガラス玉



金銅製の宝冠



復顔模型

## 風を望んで北方より立った 豪族の一人

男大迹(オホド)王こと継体大王は、近江国高島で生まれ越前国高向で育ち、西暦507年に河内国の樟葉宮で即位したと伝えられています。オホド王の誕生について『日本書紀』には彦主人王が「近江国高島郡三尾之別業」に住んでいたころ、越前国より美しき振媛を妃に迎え生まれたのがオホド王であると記されています。樟葉宮で即位した継体大王は、即位5年目に筒城宮、12年目に弟国宮へと移り、20年目に大和磐余玉穂宮に宮を定めます。



### 水尾神社(みおじんじや)

祭神は磐衝別命(いわつくわけのみこと)で、古代この地に栄えた豪族水尾君一族の祖とされています。近くには、鴨稲荷山古墳や坪戸の古墳群もあり、このあたりが古代文化の一つの中心圏をなしていたことが知られます。統治者、政治家、経営者など人の長たるべき人の神、更には安産、子授け、厄除けの神として崇敬されています。



### ワンポイントマップ

# 継体大王

### 田中王塚古墳(たなかおうづかこふん) (彦主人王御陵(ひこうしおうごりょう))

安曇川町田中にある直径58m高さ10mの二段築成の古墳。現状は、帆立貝式古墳であるが、昭和45年の調査によるともとは大型円墳であったと推定されます。王塚の被葬者が継体大王の父彦主人王であるという伝承が地元に残っており、明治38年(1905)宮内庁が「陵墓参考地」に指定しました。

### 安産もたれ石

三尾神社旧跡にある「もたれ石」は振媛が継体大王を出産する時にもたれたとされる伝承が残っています。この石を撫でた手で自分の腹をさすり安産祈願をするという習わしがあります。

### 抱衣塚(えなづか)

安曇川町三尾里地区の南、平地に築かれた円墳で6世紀の築造と推定されます。「抱衣」とは胎盤のこと、オホド王(継体大王)が生れた時の胎盤をこの地に埋めたという伝承が残っています。

### 三重生神社(みおうじんじや)

安曇川町常磐木に鎮座する継体大王の父・彦主人王と母・振媛を祭神とする式内社。振媛がもたれ石で安産を祈られた時、360歩北にあたる仮屋で彦主人王も北極星に向かい安産を祈られました。この北の仮屋跡に二柱を神としお祀りしたのが三重生神社です。

### 安閑神社・神代文字碑(あんかんじんじや・じんだいもじひ)

安曇川町三尾里に鎮座する神社で、祭神は継体大王の子の安閑天皇。この神社境内に高さ1m幅1.4mの花崗岩の表面に絵とも文字とも判別のつかないものが刻まれている「神代文字」と伝えられる碑が建っています。古くから「神代文字の石」として伝承されてきました。



# 古代遺跡

KODAI ISEKI

## 鴨遺跡

鴨遺跡は、安曇川と鴨川によって形成された沖積平野に所在する、縄文時代から江戸時代までの複合遺跡です。南鴨の調査区からは、平安時代の役所跡と考えられる重要な遺構が発見されました。木簡や木沓などの木製品も多く出土しその当時の木製品を知る大きな手掛かりとなりました。

ミステリーいっぱい  
遺跡を見て  
感じてください



鴨遺跡  
出土品

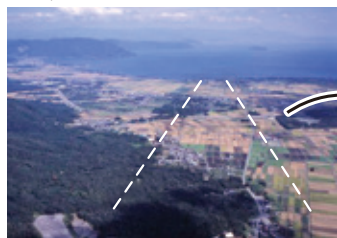
## ワンポイントマップ



ひおきまえいせき

## 日置前遺跡

箱館山東南東の高台に位置する、東西1.1km、南北0.8kmの都市的な広がりをもった奈良時代(8世紀末)の遺跡です。大部分は伊井集落の南東に広がる水田に含まれています。大型建物や倉庫群、墨書土器や木沓(きぐつ)などが出土したことから古代の役所跡と考えられています。また、西隣には、日置前廃寺遺跡があります。日置前廃寺は、白鳳時代(7世紀末頃)に創建されたとみられる古代寺院です。出土した彩色壁画片には、飛天の衣の一部とみられる絵が残っています。



日置前遺跡遠景

くつきいけのさわていえん

## 朽木池の沢庭園

高島市朽木村井に所在する平安時代末期から鎌倉時代前期の庭園で、当時の庭園の姿を良好な姿で残す全国的にも貴重な遺跡で、国名勝に指定されました。調査では、13世紀のものとみられる洲浜や中島・泉(水口)・落口(池尻)・池護岸・石組・景石・遣水状流れ・石敷きなどが確認され、池を中心とした広大な庭園遺構が見つかっています。この地域は多くの和歌にも詠まれ、風光明媚な景勝地として都の貴人が避暑などに利用したものと考えられています。



## 北牧野製鉄遺跡

きたまきのせいてつせいせき

マキノ高原周辺には、昭和43年に同志社大学考古学研究室により調査が実施された北牧野A遺跡をはじめ、複数の製鉄遺跡と木炭窯が存在しています。操業時期は8世紀代と推定されています。北牧野くちなし谷炭窯遺跡は、奈良時代から平安時代頃の木炭窯で、北牧野製鉄遺跡で燃料として使われていたと考えられています。鉄は、古代において政治や経済の発展に欠かすことができない必需品でした。『続日本紀』天平宝字6年(762)に、高島の製鉄に関する記載があり、奈良時代の有力な官人・貴族たちが製鉄に関与していたことがわかります。



5

## ロマンを覗いてみませんか

また、勝野には壬申の乱(672)の戦場になった三尾城があり、恵美押勝の乱(764)で押勝とその一族の終焉の地となった乙女ヶ池(鬼江)も残されています。

また、勝野には壬申の乱(672)の戦場になった三尾城があり、恵美押勝の乱(764)で押勝とその一族の終焉の地となった乙女ヶ池(鬼江)も残されています。



旅なれば 夜中を指して 照る月の  
高島山に 隠らく惜しも



何処にか 舟乗りしけむ 高島の  
香取の浦ゆ 漕ぎ出来る船



大御船 泊ててさもらふ 高島の  
三尾の勝野の 渚し思はゆ



何処にか われは宿らむ 高島の  
勝野の原に この日暮れなば



大船の 香取の海に 碇おろし  
如何なる人か 物思はざらむ



思いつつ 来れど来かねて水尾崎  
真長の浦を またかへり見つ

①関電変電所 入口

②乙女ヶ池

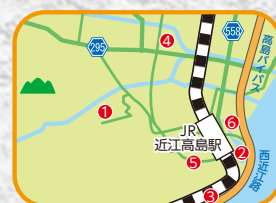
③水尾崎

日本の心を

一緒に詠いませんか……



## ワンポイントマップ



6

高島で旅の叙情を詠んだ歌

# 万葉歌碑



# 神社

jinjya

琵琶湖中の大鳥居  
(白鬚神社)



## ワンポイントマップ



たなかじんじや  
田中神社

TEL (0740) 32-1594

鎌倉時代の石造品が6基ほどあり、文化財として大切にされています。毎年5月4日には、勇壮な流鏑馬神事で有名な「田中祭」が催され、鉦や太鼓の音もにぎやかに氏子が参道を練り歩き、その年の豊作を祈ります。



わらのじんじや  
藁園神社

TEL (0740) 25-2853

浸水時、社殿の浜床に上がった鯉を捕獲したところ水害が治まったという言い伝えがあり、今日でも鯉を捕獲し奉納しています。



かいづてんじんじや  
海津天神社

TEL (0740) 28-0051

主祭神は菅原道真公で、建久2年(1191)の勧請と伝えられる。平安期創祀の大野神社(向って右、現大嶽神社)、小野神社(向って左)と並び、森の樹蔭に流造りの荘厳なたずまいをみせています。



わかみやじんじや  
若宮神社

安曇川町北船木集落の氏神で、京都上賀茂神社の分霊を奉り、草創は中世以前にさかのぼると考えられる。本殿は、棟札に明応6年造営とあり、室町時代の神社建築で三間社流造りです。保存状態もよく造営当時の姿が見られ、国の重要文化財(平成5年指定)です。

おおあらひこじんじや  
大荒比古神社

境内を覆う新緑と鮮やかな紅葉には定評があります。創建は13世紀前半と古く、南北朝時代から室町時代にかけては、近江国主・佐々木一族の絶大な崇敬を受けました。

にぎじんじや／たほうとう  
遍々杵神社／多宝塔

木造の多宝塔は、朽木神宮寺(くつきじんぐうじ)に属していましたが、遍々杵神社の奥の院の塔とも考えられています。どっしりとした安定感がある塔で、平安時代の作風を残す鎌倉時代初期の木造釈迦如来像と23軀の薬師如来像が安置され、古来から信仰を集めています。5月に行われる例祭では、御翼渡御(みこしとぎよ)が有名です。

しらひげじんじや  
白鬚神社

白鬚神社本殿は国の重要文化財(昭和13年指定)です。豊臣秀吉の遺命を受け、秀頼公の寄進により慶長8年(1603)に建立。本殿は檜皮葺きで入母屋造り。桃山時代特有の建築で、片桐且元書の棟札も残されています。屋根続きの拝殿は明治12年(1879)の建築。



7

# 寺院

歴史ある

寺院をめぐる旅を

## ■宝幢院(ほうどういん)

天平2年(730)泰澄大師が創建して仏寺院と称し、これが宝幢院の前身といわれています。境内には、本能寺の変の後、丹羽長秀に謀殺された武田元明の墓碑があり、水上勉の小説「湖笛」にも描かれています。元明の妻はその後、秀吉の側室(松丸殿)となります。

## ■酒波寺(さなみでら)

奈良時代に行基が開基したと伝えられ、千手十一面観音が本尊として祀られています。昔、周囲の谷川に村人を困らせる大蛇が棲んでおり、酒を吞ませて退治したところから、この地を酒波(さなみ)と呼ぶようになりました。寺名も同じ由来です。参道の長い山裾のお寺で、春にはエドヒガン桜やソメイヨシノが咲き乱れ参拝する人の目を和ませてくれます。

## ■長谷寺(はせでら)

白連山と号し、本尊は秘仏十一面観音菩薩です。縁起によると、継体天皇の世に楠の霊木が里に流れ出て、桓武天皇の世に大和の長谷寺のご本尊になったと伝えられています。

## ■興聖寺(こうしょうじ)

鎌倉時代(1237)近江守護佐々木信綱が、承久の乱で戦死した一族の供養のために道元禅師を招いたのが始まりといわれています。本尊の木造釈迦如来坐像は伝教大師の遺作と称される平安時代の名作で、国の重要文化財に指定されています。境内には、細川高国が將軍を慰めるために贈ったとされる国指定名勝「旧秀隣寺庭園(足利庭園)」や、ヤブツバキ(関西花の寺第14番)などの見所もあります。

■拝観料 300円/人

旧秀隣寺庭園(興聖寺)



宝幢院



酒波寺



酒波寺のエドヒガン



長谷寺

興聖寺

## ワンポイントマップ



8



# 西近江の 七福神めぐり

SHICHIFUKUJIN

日本古来の「守り神」の信仰に、鎌倉時代の頃からインドや中国の神様が加わって生れたのが七福神。高島には、西近江七福神があります。

色紙宝印のご希望は、要事前連絡。  
宝印は各300円。  
色紙800円もあり。



幸運を呼ぶ七人の神様



心なごむ神様、七福神発見の旅へ……



毘沙門天  
大崎寺  
おおさきじ

**戦う正義の味方毘沙門天**  
※海津大崎は、関西屈指の桜の名所です。

■住所／マキノ町海津128  
■TEL／(0740)28-1215



恵比須神  
川裾宮 唐崎神社  
かわすそみや からさきじんじや

**家業の繁盛、開運の神様**  
※7月第4日曜日には、湖西随一の夏祭り「川裾まつり」で参拝者や夜店で賑わいます。

■住所／マキノ町知内924  
■TEL／(0740)27-0322



弁財天  
西江寺  
せいごうじ

**美しき学芸の女神様 弁財天**  
※梅雨期には、池の周りのもみじにモリアオガエルが卵を産み付けます。

■住所／今津町蘭生592  
■TEL／(0740)22-0637



福祿寿

阿志都弥神社 行過天満宮  
あしづみじんじや ゆきすぎてんまんぐう

**健康と長寿の神様 福祿寿**  
※境内には、御神木の樹齢千年と推定されるシイの巨樹(県自然記念物指定)があります。

■住所／今津町弘川11707-1  
■TEL／(0740)22-2379



大黒天  
正傳寺  
しょうでんじ

**満面の笑みが福を呼ぶ大黒天**  
※県指定の薬師如来像があり、境内の亀ヶ池には水がこんこんと湧き出しています。

■住所／新旭町旭38  
■TEL／(0740)25-2241



布袋尊  
玉泉寺  
ぎょくせんじ

**中国、唐の時代の実存の僧がルーツ布袋尊**  
※境内に、鎌倉・室町時代の石仏(五智如来等)があります。

■住所／安曇川町田中3459  
■TEL／(0740)32-0791



寿老人  
白鬚神社  
しらびげじんじや

**延命長寿、福財の神様 寿老神**  
※境内に、芭蕉や与謝野鉄幹・晶子夫妻、紫式部らの句碑・歌碑があり、9月5日・6日には「明神まつり」があります。

■住所／鵜川215  
■TEL／(0740)36-1555

ワンポイントマップ



職人の魂がこもった  
芸術作品を



うかしじゅうはつたいせきぶつぐん  
鵜川四十八体石仏群

白鬚神社より500m程北上した山麓に阿弥陀石仏群が膝を突き合わせるように安置されています。近年まで、室町時代後期に観音寺城(現安土城)城主の佐々木六角義賢が亡き母の菩提を弔うため1553年に建立したとの説が有力でしたが、冷泉為広の「為広越後下向日記」の記載から1491年には既に存在が知られており、さらに地元の古文書「小松之庄と音羽新庄と境論目録=伊藤家文書」に1436年の境界争いの記録に「四拾八鉢」の文字が見られることから、従来の説を100年以上遡ることが分かってきました。その由来は再び謎に包まれることになりました。現在は33体安置されており13体は江戸時代に大津市坂本の慈眼寺に移され、残り2体は行方知れずになっています。

鵜川四十八体石仏群  
■種類:如来  
■指定:県史跡・県文化財  
■名称:鵜川四十八体石仏群  
■時代:室町時代

JR近江高島駅から  
タクシー約5分



# 石仏

SEKIBUTSU



ぎょくせんじせきぶつぐん  
玉泉寺石仏群

阿弥陀山山麓の裾野、行基が天平年間に開いたと伝えられる、安曇川町最古の玉泉寺の境内と墓地内にいかにも瞑想的な雰囲気を感じながらたくさんの室町時代の石仏・石像がならんでいます。五体は本堂に南面する五智如来(阿弥陀・薬師・大日・弥勒・釈迦)で、丸彫技法を用いた作と考えられています。本堂背後の墓地には、室町時代の石造六観音像、石造地藏堂などがあります。

■住所／安曇川町田中3459  
■TEL／(0740)32-0791

玉泉寺石仏  
■指定:市文化財  
■名称:玉泉寺石仏群  
■時代:室町時代

JR安曇川駅からタクシー約7分



# 近世の街道

高島市には、京と越前国を結ぶ北国海道（西近江路）や、若狭国を結ぶ若狭街道（九里半街道）など主要な街道が通っています。

高島市における近世の北国海道沿いには、河原市・今津・海津の宿場町があります。

## 河原市一里塚跡

一里塚は、距離の目安として街道の両脇に築かれた木を植えた塚のことをいいます。一里塚は旅の距離の目安、運賃の支払いの目安、休憩場所としても利用されていたと考えられています。

## 大溝陣屋総門

近世の北国海道沿いに位置する城下町で、元和5年（1619）に、伊勢上野城主であった分部光信侯が大溝藩2万石の藩主として入封し、城下に陣屋を整備しました。武家屋敷の正門である総門は、大溝陣屋に属する建造物で唯一現存する貴重な文化財です。重要文化的景観（大溝の水辺景観）を構成する要素の一つで、文化財を活かした地域活性化を図るための高島市重要文化的景観拠点施設として、令和6年に復原オープンしました。

## 今津浦

今津は、京都と北陸諸国を結ぶ交通の要衝であり、また、琵琶湖の水運を取り入れた陸運と水運が交わる物流の要として発展してきました。日本海側から若狭を経て京都や大阪に運ぶ物資は、今津浦で船に載せて琵琶湖の水運を使うように豊臣秀吉が命令した書状が伝わっています。日本海経由の物資の統制が課題であった中で、今津浦が流通の拠点として重要視されていたことが分かります。

## 石敢當

高島市安曇川町田中の南市交差点南西に存在する江戸時代後期に建てられたとされる道標で、県内では珍しい「石敢當」の文字が刻まれています。正面に「石敢當」、右側面に「すぐ北国海道」、左側面に「すぐ京大津道」と刻まれています。左右両面に刻まれた内容から道標であったことがわかります。

## 近江聖人

# 中江藤樹



藤樹先生は慶長13年（1608）安曇川町上小川で生まれました。9歳のとき米子藩に仕える祖父の養子となり故郷を離れ、藩主の転封に従い四国大洲に移った11歳の時学問の道に進む志を立てました。27歳の時脱藩帰郷しましたが、多くの者が続々と教えを受けに訪れたのは人を引きつける魅力にあふれた人物だったからでしょう。

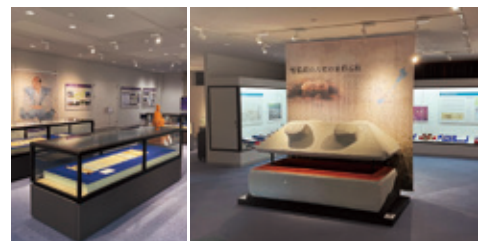
母に孝養を尽くしながら勉学に励み、また村人に分け隔てなく接して人の道を説きましたが、慶安元年（1648）41歳の若さで生涯を終えました。我が国で最初に聖人と呼ばれた人で王陽明の思想に共感し、自らの学問を築いたことにより日本陽明学の始祖とされています。

藤樹の名は、屋敷内に藤の老樹があってその匂い立つ紫の花房を先生が何より愛でたことから敬慕して呼んだものです。



## 藤樹書院跡・良知館

■住所／安曇川町上小川211  
■TEL／(0740)32-4156  
■開館時間／9:00～16:30  
■年中無休



## 中江藤樹・たかしまミュージアム

高島市には、豊かな自然と人々の生活が作り上げた文化財が数多くあり、それらは先人が守り、郷土愛を育み、受け継いできた高島市の財産です。『中江藤樹・たかしまミュージアム』は、これらの文化財を発信・展示しています。

■住所／安曇川町上小川69  
■TEL／(0740)32-0330  
■開館時間／9:00～16:30  
■休館日／月曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始  
■入館料／300円（高校生以上）

先生のゆかりの地を訪ねて……



中江藤樹像

徒歩  
約15分



道の駅 母子孝養像



中江藤樹・たかしまミュージアム



藤樹神社

徒歩  
約5分



藤樹先生墓所

## ワンポイントマップ



我が国で  
最初の  
聖人



藤樹神社 ■大正11年（1922）創立



# LAKE BIWAKO ROWING SONG



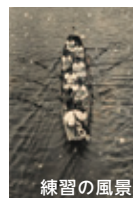
## 琵琶湖周航の歌誕生のまち 近江今津散策コース

### 1 琵琶湖周航の歌資料館

この美しい琵琶湖の風景から、周航の歌が生まれました。

「われは湖の子〜」で知られる「琵琶湖周航の歌」は、高島市今津町で誕生しました。この歌は、大正6年、旧制第三高等学校(現京都大学)水上部の小口太郎(明治30年、長野県岡谷市生まれ)が、琵琶湖周航2日目の今津の宿で自作の詞を披露し、それをクルー仲間が当時流行していた「ひつじぐさ」=作曲:吉田千秋(明治28年:新潟県新潟市生まれ)のメロディーにのせて仲間と大合唱しました。翌7年、太郎は推敲を重ね1番から6番までを完成させ、三校ボート部の寮歌として歌い継がれました。平成10年「琵琶湖周航の歌」発祥の地として高島市今津町に「琵琶湖周航の歌資料館」が開館しました。

■住所/高島市今津町中沼1丁目4-1  
今津コミュニティセンター内  
■TEL/(0740)22-2108  
■開館時間/9:00~17:00  
■休館日/月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始



練習の風景



### 2 今津港(竹生島クルーズ)

琵琶湖を臨む今津港に、今津町の地形をかたどった「琵琶湖周航の歌」の歌碑があります。赤御影の石碑には、周航の歌の歌詞1番から6番までが刻まれています。今津港から約30分、神が棲む島として人々の信仰を集める竹生島へのクルーズが人気です。

#### 琵琶湖汽船(株)今津営業所

■住所/高島市今津町今津30  
■TEL/(0740)22-1747



13

## ヴォーリス建築 Vories

nostalgic

湖西の  
モダン文化



米国カンザス州出身のウィリアム・メレル・ヴォーリスは、明治38年(1905)に英語教師として滋賀県に来日、明治41年には建築設計監督事務所を始め、2年後にヴォーリス合名会社を創設、生涯に約1,600余りの建築設計を手掛けました。滋賀県内にも多くの「ヴォーリス建築」が残っており、高島市内では今津町の辻川通り(ヴォーリス通り)に3つのヴォーリス建築が現存しています。

### 5 今津ヴォーリス資料館

大正12年(1923)百三十三銀行今津支店として建築され、その後、合併して滋賀銀行今津支店となりました。滋賀銀行の移転により、昭和54年(1979)今津町図書館として開館。図書館の移転により平成15年(2003)ヴォーリス資料館として開館しました。

■住所/高島市今津町今津175  
■TEL/(0740)22-0981  
■開館時間/10:00~17:00  
■休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)  
年末年始(12/28~1/4)

### 6 日本基督教団今津教会

【昭和9年(1934)建築】

建築当時のまもなくも健在で、幼稚園としても使用されています。特定の様式で統一されない、ヴォーリス独自のスタイルで、大きな白壁は和風を意識したデザインになっています。



### 7 旧今津郵便局

【昭和11年(1936)建築】

和洋折衷式建築で、入口の屋根や窓の配置などにヴォーリス独自の創意がみられ周囲の町並みに溶け込んだ親しみある姿を今に伝えています。



### 3 近江今津の浜通り

旧今津村の中心街で、金沢藩今津代官所跡や御蔵所・問屋・旅館が建ち並んでいました。全盛期には問屋が10数軒、旅館が8軒ほどあったようです。現在も、数軒ごとに街道と十字に交差して浜辺や裏通りに続く小路「辻子(ズシ)」が見られます。



### 4 九里半街道起点

今津と若狭小浜を結ぶ「若狭街道」は、距離が九里半(約38km)あったことから「九里半街道」とも呼ばれていました。街道筋唯一の宿場である熊川を境に今津⇄熊川間が四里半、熊川⇄小浜間が五里ありました。小浜に陸揚げされた日本海諸国の物産が今津に運ばれ、湖上輸送により京都・大阪へ持ち込まれました。まさに、若狭と琵琶湖を結ぶ中世の商業交通路であったといえます。



14

### ワンポイントマップ







## Kaizu 海津

### 高島市海津・西浜・知内の水辺景観

海津大崎から知内川河口にいたる海津・西浜・知内の湖岸地域では特に琵琶湖や湧水、内湖や水路といった水辺での生活習慣、歴史、文化などが評価されています。湖岸1.2kmわたり続く江戸時代に築かれた石積みも見どころです。

#### ワンポイントマップ



## 重要文化的

cultural landscape

## 景観 View

その地域独特の自然と人々の暮らしが作り上げてきた文化的な景観  
平成27年には「琵琶湖とその水辺景観」が日本遺産に認定されこれらの文化的景観選定にも選ばれました。

### 大溝の水辺景観

打下集落と乙女ヶ池は、かつて琵琶湖周辺に点在していた内湖とそれに沿うように形成された砂州上の集落で、昔からその形態を変えずに残っています。また、大溝城築城と同時に形成された勝野の城下町は江戸時代から近代にかけて多くの職人や商人でにぎわいました。勝野の町並みは、当時の町割り水路や建物を現在に伝えています。

#### ワンポイントマップ



## 大溝 Oomizo

#### ワンポイントマップ



【かばた見学は要予約】  
(お一人様 1,000 円)  
針江生水の郷委員会  
TEL/(090)3168-8400

### 高島市針江・霜降の水辺景観

湧水が豊富なこの地域は、各家から湧き出した水を生活水に利用する「かばた」があります。元池から壺池、端池で順次利用して最後は端池の鯉が残飯を食べ浄化して川下に流します。こうした「かばた」を中心としたこの地域の貴重な水文化は平成20年に「平成の名水百選」に選ばれ、平成23年にはエコツーリズム大賞優秀賞を受賞しました。



## 針江 Harie



### 川上祭

日置神社と津野神社両社の祭礼で、“山野に礼”を尽くす意味から「サンヤレ祭」とも呼ばれる、五穀豊穡を願う春祭りです。神輿渡御や流鏝馬、約20mの太のぼりが見所。県の選択無形民俗文化財に選定されています。

- 開催日/毎年4月第3日曜日
- 場所/平ヶ崎馬場(高島市今津町日置前)
- アクセス/JR近江今津駅から総合運動公園線バスで約25分「消防本部前」下車



### 海津力士祭

学問の神様・菅原道真公をお祀りする海津天神社の春季大祭。港町として栄えた海津で廻船問屋の若者たちが力士を真似て化粧廻しを着け、その美しさを競ったのが始まりとされます。神輿を担いだ若者たちが力強く練り歩く様は一見の価値あります。

- 開催日/毎年4月29日
- 場所/海津天神社(高島市マキノ町海津)
- アクセス/JRマキノ駅からマキノ高原線バスで約2分「海津」下車



### 七川祭

大荒比古神社の例祭で、湖西随一の馬祭りといわれています。流鏝馬や競馬・神輿渡御・傘鉾行列など見どころが多く、中でも県の選択無形民俗文化財に選定されている「奴振り」は圧巻です。

- 開催日/毎年5月4日
- 場所/大荒比古神社(高島市新旭町安井川)
- アクセス/JR新旭駅から徒歩約40分



# 高島4大春まつり

毎年4月から5月にかけて、古くからの様式や伝統を伝える春の祭礼が高島市内各地で行われます。



### 大溝祭

大溝祭は、城下町大溝の鎮守・日吉神社の例祭。鉦鉦や太鼓、笛に合わせて5基の曳山が巡行し祭礼を彩ります。現在は、5月3日が宵宮(曳き初め)、4日が本祭です。県の選択無形民俗文化財に選定されています。

- 開催日/毎年5月3日・4日
- 場所/日吉神社(高島市勝野)
- アクセス/JR近江高島駅から徒歩約10分



#### ワンポイントマップ